

# 災害に強い街づくりとは～道の駅に見る減災や復興の拠点施設～

福島県立安達高等学校2年 米長愛尊

研究目的:自分自身が東日本大震災で被災し、  
またユネスコスクール生として幾つもの被災地を視察した経験から

- ① 「たとえ自然災害に見舞われても減災が可能な街づくり」
- ② 「震災の記憶を伝承し減災につながる街づくり」

**調査** 街づくりの専門家・地元の市役所の方  
にお聞きしました。「災害に強い街づくり  
のために、市で行っていることは何ですか？」  
答えは3つの施策でした。



## ① 建物整備 (復興住宅など)

二本松復興住宅の様子:福島県ホームページより



## ② 街路整備 (除雪など)

国土交通省  
福島河川国道事務  
所より



## ③ 都市公園整備 (災害時の拠点として)



二本松市公式Webサイトより

より大きな可能性を感じた都市公園整備に着目。災害に強い街づくりのヒントになる、たくさんの人々を  
収容できて、災害拠点になり得る施設は他にないだろうか...



## 理想的な施設を発見! 全国に約 1,200 ある 道の駅

### 発見 1



### 発見 2

過去の教訓を次世代に生かせるように…  
道の駅の防災機能の見直し  
新潟中越地震  
見直し 2004.10.23 経験  
新たな災害 ← 東日本大震災  
**知識循環型施設**

### 発見 3

地域の特色も交えて、復興のシンボルとしての機能: **実際にお話を伺ってみました!**  
・IC 直結の広大な立地で、自衛隊・ボランティアなどの受け入れ(道の駅ふくしま)  
・地震や磐梯山噴火の際に、町と災害対応(道の駅猪苗代)  
◎映像パネル展、地元中学生の作品を展示(道の駅なみえ) **道の駅の復興情報発信**

### 発見 4

防災機能を持つ  
・備蓄品  
・太陽光発電

### 問題点

道の駅は車で行くことを想定した施設。災害時には車で移動できない場合もあるだろう。

### 提案 1

高齢者や幼児などでも災害時に徒歩で安心して避難できるように、日頃から地域の人たちが利用できる「共助」機能を持った「ミニ道の駅」を各自治会で地元設置していく。

### 提案 2

生活拠点にあるショッピングセンターなど既存の施設に道の駅と同じ働きを持たせ、例えば「語り部の配置」など次の世代に伝えていけるよう災害伝承の機能などを設置していく。

**まとめ** 繰り返される災害に対して私たちにできることは、知恵を出し合い**道の駅のような減災に役立つ施設を増やし「災害に強い街づくり」を進めていくことではないだろうか。**